

学生大使派遣プログラム [ベトナム/ベトナム農業大学]  
地域教育文化学部児童教育コース 1年東海林舞

《日本語教室》

日本語教室では、年齢も日本語のレベルもばらばらで、生徒数も日によって異なる中で、臨機応変な授業組み立てが求められました。教科書を持ってきている生徒もいれば、持っていなくてもただ会話だけを楽しみにきている生徒、本当にさまざまです。しかし「日本語を学びたい」という熱い視線、意欲はどの生徒にも共通して見られて、圧倒されました。



20歳を超えてから進んで新しい言語を学ぶという人がこんなにもいることにも驚きました。また新しい単語を教えると、実用的な単語ではなくてもすべてメモして覚えようとする姿にも感動しました。私も外国語を勉強することは好きですが、難しい単語やあまり使わなそうな単語は覚えることを避けてしまう傾向にあります。しかしこうして教える側になって「こんなふうに何でも覚えようと努力する人が伸びるのだな」と感じました。自分は日本語を教える側ではありましたが、ベトナム人の生徒と会話していく中で多くの刺激を受けました。

日本語教室は、午前中は 9:00~10:30、午後は 15:00~16:30 です。基本的には山大生を2グループに分けて授業に出ていました。団体授業のときもあれば個別指導のときもあります。

今回山大生の学生大使と一緒に日本語教室で先生をしていた事務局の鈴木先生と話していたとき、素敵なアドバイスをいただきました。「単語や文法とか教科書に沿った勉強は彼らいつでもできるよ。だから日本人の自分たちにしかできない授業をつくれたらいいと思うな。日本にあってベトナムにないもの、そしてその逆、文化の違いや共通点、生活のルールなんかを教えてあげるとかね。そうやって日本好きだとか日本語もっと勉強したいっていう子が増えたらいいと思うな。」と話してくれました。私はその言葉を聞いてから、私は、「日本人に『ベトナムのいいところってなんですか?』と聞かれたら日本語でどう答えるか」を一緒に考えていく授業をしたり、自分がベトナムに来て驚いたことを紹介したりしました。そこで話が膨らんだり互いに新しいことが知れたり、自然と笑い驚きのたえない授業になっていきました。



日本語教室では、いま自分らに求められていることを把握して実行していく力、異文化を伝え合う力が身につきました。

#### 《現地での交流》

日本語教室の学生はもちろん、それ以外にもたくさんの友達をつくることができました。日本にはないお肉や果物やスイーツを楽しんだり、有名な観光スポットに足を運んだり、ベトナムの民族衣装である「アオザイ」を着て街を歩いたりとても楽しい日々を過ごしました。

みんなとてもフレンドリーかつチャーミングで、そんな仲間に出会えたこととても嬉しく思います。

#### 《プログラム全体を通して》

現地で過ごした日々の充実感、友情、多くの感動は想像をはるかに超えるものでした。行く前に自分の頭の中にあったイメージ、ベトナムに対するステレオタイプ的な考え方を一瞬にしてぶち破る、あったかくて離れられなくなるような国でした。

世界には色々な国があつて、文化や社会情勢も違うなかで自分には何ができるのか考えさせられました。



#### 《目標達成度》

積極的に現地の人と触れ合ってコミュニケーション力を高めることができました。何か自分が希望することや疑問に思っていることがあったとき、相手に伝わりにくくても、あきらめずに伝えようと努力しました。



#### 《今後の展望》

私は将来教育の現場で働きたいと考えていますが、子どもたちに世界のこと、広い視野を持つ大切さなどを伝えられる唯一無二の存在になれるように、大学生のうちに海外に出てさまざまな経験をしたしたいと思います。